

2003 年度 委員会活動成果報告

(2004 年 3 月 31 日作成)

委員会名	応用確率論小委員会	主 査 名：高田毅士
所属本委員会 (所属運営委員会)	構造委員会 (荷重運営委員会)	委員長名：西川孝夫 主 査 名：石山祐二
設 置 期 間	2003 年 4 月 ~ 2005 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画	2003 年度：荷重指針改定、刊行後のフォロー 確率・統計、信頼性理論に関する研究推進 2004 年度：確率・統計、信頼性理論の普及と活用	
委員構成 (委員名(所属))	高田毅士(東京大学) 森保宏(名古屋大学) 西谷章(早稲田大) 井戸田秀樹(名工大) 趙衍剛(名工大) 高橋利恵(前橋工科大) 日下彰宏(鹿島建設) 高橋雄司(建研) 大鳥靖樹(電中研) 斎藤知生(清水建設) 石川孝重(日本女子大) 高橋徹(千葉大) 今塚善勝(大林組) 川合拓(竹中工務店) 櫻村俊也(竹中工務店)	
設置 WG (WG 名：目的)	荷重係数 WG：荷重指針改定の重要項目のひとつに、荷重係数の具体的な算定方法の提示があり、これに向けての作業を実施する。解説部分に荷重係数表を提示すること、目標安全水準の目安を示すための作業などがある。	
2003 年度予算	160,000 円	

項 目	自己評価
委員会活動状況 (開催日・参加人数)	2003 年度に 3 回の委員会(9/24,12/5,2/20)、5 回の荷重係数 WG(4/25,5/30,7/3,8/8,9/24)を行った。
得られた成果	<p>(成果の具体的内容、成果の学術的・技術的・社会的価値、ホームページ等での公開の有無)</p> <p>今年度の前半は、主に荷重指針の付録である荷重係数 WG を活動を行い、現行設計法のコードキャリブレーションを行い、現行設計法の要求する信頼性指標の評価を行い、その成果を指針付録 2.2 のかたちでまとめた。</p> <p>後半は、3 回の委員会を行い、毎回、話題提供者(日下：信頼性に基づく米国の鋼構造設計指針、趙：3 次モーメント信頼性指標、C.G.Bucher：時間依存型問題における重点サンプリング法)からの話題に対して、議論した。これらのものは、信頼性手法の最先端の応用研究として、来年度以降の刊行物の資料とする予定である。</p> <p>委員会 HP アドレス：</p>
目標の達成度	(当初の活動計画と得られた成果との関係)
	荷重指針の付録 2.2 については未だ完成しておらず、原稿のまとめが残っている。これについては荷重係数 WG の活動が主査多忙により遅れた。
その他評価すべき事項	